

■三宅雪嶺(雄二郎)ジャーナリスト。蘇峰の(国民之友)発刊翌年、{日本人}を発刊、哲学的に幅広く発言し、学界にも影響。
みやけせつれい
桜田門外変・1860＝加賀国金沢で、加賀藩家老本多家の儒医三宅恒の第四子に生まれた。母は洋医黒川玄龍の長女滝井。

薩長同盟・・・1866＝6歳：河波有道の塾に入門。

明治維新・・・1868＝8歳：
戊辰戦争終・1869＝9歳：

廃藩置県・・・1871＝11歳：仏語学校に入学するが、伯父黒川良安の勧めで、英語学校に移り、

明治6年政変1873＝13歳：

初の民間工場1875＝15歳：名古屋の官立愛知英語学校に入学。
三つの反乱・1876＝16歳：東京開成学校の予科に入学。
西南戦争・・・1877＝17歳：この年、東京大学が開校して以来、文学部哲学科が置かれている。
大久保暗殺・1878＝18歳：
琉球処分・・・1879＝19歳：落第、退学騒動ののち、復学して_東京大学文学部に進み哲学科を専攻。哲学科はただ1人であった。
_在学中フェノロサの影響を受け、図書館に通いつめてスペンサーやヘーゲルなどの著作を読みあさる。

明治14年政変1881＝21歳：

岩倉具視没・1883＝23歳：_東京大学文学部哲学科を卒業。処女論文「日本人民固有ノ性質」発表。同大学編輯所に就職、

帝国大学始・1886＝26歳：「基督教小史 第1冊」。編輯所の文部省移管に伴い編輯局に移り、「日本仏教史」を出版、
国民之友始・1887＝27歳：この年、父死去。_役所仕事に腹を立て文部省編輯局を辞職。東京専門学校と哲学館で哲学を担当、
初の対等条約1888＝28歳：*政府の欧化政策に反対して、大同団結運動に参加し、志賀重昂らとともに{政教社}を設立して雑誌{日本人}を創刊。10年前に明らかになった高島炭鉱坑夫虐待事件に対し、{日本人}紙上で、坑夫を支援。
帝国憲法发布1889＝29歳：_ヘーゲル哲学を紹介した「哲学涓滴」、
帝国議会始・1890＝30歳：「論理学」、
足尾鉍毒始・1891＝31歳：*この年刊行の「真善美日本人」「偽悪醜日本人」で、「護国」と「博愛」は矛盾しないと主張、陸羯南、徳富蘇峰らとともに明治中期の代表的言論人となる。続けて、{亜細亜}を創刊。南太平洋諸島巡航に出発、

大本教・・・1892＝32歳：「我観小景」。_帰国。すでに有名になっていた女流作家田辺龍子(花圃)と結婚。
郡司千島探検1893＝33歳：「王陽明」、
日清戦争始・1894＝34歳：「馬鹿趙高」、
白馬会・・・1896＝36歳：
八幡製鉄始・1897＝37歳：高島炭鉱は、日本で最も早い納屋制度の廃止に至る。

教科書疑獄・1902＝42歳：欧米漫遊の途に上り、
日比谷公園・1903＝43歳：帰国。小谷保太郎編「雪嶺漫筆」、
日露戦争始・1904＝44歳：「大塊一塵」、
日露戦争終・1905＝45歳：
満鉄発足・・・1906＝46歳：「小泡十種」
韓国反日暴動1907＝47歳：_足尾鉍毒事件で被害農民を強く支援。{日本人}を{日本及日本人}と改題して以後主筆となり、
アヲヲ`創刊・1908＝48歳：「明治丁未題言集」、
伊藤博文暗殺1909＝49歳：_「{太陽}の`理想的新聞雑誌記者`」の第1位に選ばれた。この頃からライフワークとして体系的な著述に着手。
この年の「宇宙」以降、「同時代観」として、本格的な編年体で書かれた哲学論文を書き続けて行く。

韓国併合・・・1910＝50歳：人物論集「偉人乃跡」。_<大逆事件>で幸徳秋水を大いに弁護。
明治天皇没・1912＝52歳：
大正政変・・・1913＝53歳：「明治思想小史」。長女が政治記者中野正剛と結婚。
第一次大戦始1914＝54歳：
21ヶ条要求・1915＝55歳：「青年訓」「三宅雪嶺修養語録」「三宅雪嶺人生訓」_「想痕」、

ロシア革命・1917＝57歳：「三宅雪嶺美辞名句集」、
本格政党内閣1918＝58歳：人物論集「小紙庫」、

大暴落・・・1920＝60歳：「内実の力」。_「女性日本人」を創刊。自宅への`押しかけ会`ができるほど人気があった。
原敬首相暗殺1921＝61歳：

関東大震災・1923＝63歳：*内紛により{政教社}を離れ、女婿中野正剛と、{我観}を創刊。

金融恐慌・・・1927＝67歳：「三宅雪嶺格言全集」、
世界恐慌・・・1929＝69歳：「同時代観」はこの年まで20年連載し続けた。
海軍軍縮条約1930＝70歳：三宅文庫が落成。
満州事変・・・1931＝71歳：
五一五事件・1932＝72歳：この年創刊の(帝都日日新聞)の社賓となり、一日おきに社説を寄稿。
帝人疑獄事件1934＝74歳：「隔日随想」、
二二六事件・1936＝76歳：「初台雜記」。{我観}を{東大陸}と改題、
日中戦争始・1937＝77歳：_帝国芸術院会員、
健保+総動員1938＝78歳：「面白くならう」「武將論」、
第二次大戦始1939＝79歳：「今の時局に野依君が十人あれば」「英雄論」「人物論」「生活の磨き」「祖国の姿」。_林銑十郎内閣の組閣にあたって文部大臣就任を要請されるが辞退。

日米開戦・・・1941＝81歳：
・・・1942＝82歳：「爆裂して」「爆裂の前」、
創価学会検挙1943＝83歳：_文化勲章を授与されるが、妻が死去し、中野正剛が自刃するという不幸のなか、
年金+総武装1944＝84歳：「激動の中」。{東大陸}から、{我観}に復題してまもなく、
敗戦・・・1945＝85歳：_没した。
没後、「同時代史」全6巻刊行。書き続けてきた「自伝」は、のちに日本図書センターの{人間の記録}シリーズに入れられた。徹底した在野のナショナリストとしての姿勢を保ち続け、堺利彦、幸徳秋水、岩波茂雄をはじめ私淑者が多い。

中公シリーズ「日本の名著」、佐藤能丸「異形の学者山脈」、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、インターネットWikipedia・流通経済大「雪嶺プロフィール」、